

研究論文

恵庭市における「子育てサークル」の活動

大滝 まり子

(2012年12月26日受稿)

抄録：「子育てサークル」(以下「サークル」)は、母親たちが子どもを連れて集まり、話し合ったり、子どもと遊んだり行事に参加したりする活動である。恵庭市にはこのようなサークルが7か所あり、継続的に活動している。本研究では、サークル会員の参加についての態度や考えについてアンケート調査を行ない、市の子育て支援の一つである「プレイセンター」の研究結果と比較した。

その結果次のことが分かった。1)サークル会員の68%が、自分のサークルに参加するだけで、何らかの役目を引き受けていなかった。他方、プレイセンター会員の66%は、参加するだけでなく、何らかの役目を引き受けていた。

2)サークル会員は、子育てを助けてもらいたいとき、夫やその他の家族に助けを求められない場合に頼れる人として、サークルの仲間を34%、近所の人を17%を選んだのに対して、プレイセンター会員では、プレイセンターの仲間を選んだのがわずか9%、近所的人是7%だった。これはサークルが市の全域に及ぶ活動ではなく、近隣地域密着型の活動であることによると考えられる。

I. はじめに

1 少子化や核家族化という社会の変化、子育て環境の変化の中で、子育て支援が様々な形で実施されるようになった。実施主体も自治体、幼稚園、保育園、保育者養成校などがあり、活動形態も多様化している。このような支援と異なり、「子育てサークル(以下サークル)」という「子育て中の親たちが子どもを連れて集まり、子ども同士遊ばせながら、学習や情報交換をしたり、運動会やクリスマスなどの行事を共同で実施したりするサークル」¹⁾もまた、自動的な子育て支援として重要な役割を担っている。サークルは、2000年には全国で1万ヵ所以上、40万人の会員がいると推測されていた²⁾。

2 恵庭市では、2000年に子育て支援センターを発足させ、市内のサークルの情報を提供し始めた。第1回の恵庭市子育てサークル連絡会は2006年に開催され、親子19組が集合して、サークル

紹介と情報交換が行われた。2007年7月には親子29組、2008年1月には親子28組が交流した³⁾。その後、市役所の提案により、2008年4月にサークル全体が集合した「わんぱく連合会」が発足した。これは、サークル同士が交流し、少人数のサークルが連携して全体としての活動を工夫するだけでなく、市からの連絡も効率的に行うためであった。

3 恵庭市のサークルに、次に大きな変化が訪れたのは、2008年9月に恵庭市が新しい子育て支援策として「プレイセンター」を導入した時である。この新しい子育て支援は、少子化、地域の教育力の弱体化という状況を改善するために有効な方法を模索していた恵庭市が、ニュージーランドの幼児教育システム「プレイセンター」を、自治体としては全国で初めて導入したものである。

プレイセンターの特徴は、①子どもの遊びの尊重、②親の協働運営、③親の学習の3点である。プレイセンターを始めるに当たり、恵庭市は子育て中の親に広く参加を呼び掛ける一方、サーク

ルにプレイセンターへの参加を強く働きかけた。サークルで協働している親たちの経験が必要とされたためだという。当時は、両者の活動が冒頭に記したサークルの定義と重なり合うため、市のプレイセンター担当者も違いを明確に説明できず⁴⁾、プレイセンター開始後も、サークル会員からはプレイセンターはサークルと同じという意見が多かったようである。

4 両者は「親の協働」という点で他の支援と異なる共通した特徴を持っていながら、実際には、次の3点で異なっている。第1は、プレイセンターは市の支援であって、これは基本的には国の施策に基づく支援であるが、サークルは親が自分たちの思いや必要から行う自発的な活動であるということ⁵⁾。第2に、プレイセンターでは親の学習が基本方針の1つであること、第3に、スーパーバイザー制度があることである。親の学習とスーパーバイザー制度は、会員がお互いに保育方針を共有し、会員がやめたり新しく入ってきたりしても、同一のシステムとして継続していくために必要なものである。

サークルとプレイセンターのこうした違いは、会員の態度や思いにどのように反映しているであろうか。本研究では、恵庭市におけるサークルについて活動の内容、会員のサークルに対する態度と考え方を調査し、2010年の「プレイセンター」参加者の調査結果⁶⁾と比較して、サークルの特徴を明らかにしたいと考える。

II. 調査方法

1 調査対象 恵庭市が把握している「子育てサークル」7か所の会員を調査対象とした。

2 調査方法 2012年12月6日から13日までに、恵庭市のサークル担当者に依頼して、各サークルに質問紙を配布し、回収も市の担当者に依頼した。

配布数52、回収数35で、回収率は67.3%であった。

3 質問内容 質問紙は、プレイセンターの調

査報告書⁷⁾、子育てサークル研究会の報告書⁸⁾を参考にして作成した。質問内容の骨子は下記の①～③である。質問紙は資料として本文の後に添付した。

- ①サークルの活動状況
- ②サークルに対する会員の考え方と態度
- ③今後の課題

III. 結果と考察

1 会員のプロフィール

会員の年代は、「20代」3人(8.6%)、「30代」25人(71.4%)、「40代」7人(20.0%)であった。就業状況は、「パート」1人(2.9%)、「無職」33人(94.3%)、不明1人(2.9%)であった。

プレイセンターでは、「20代」20.4%、「30代」66.7%、「40代」13.0%で、「無職」88.9%、「フルタイム」1.8%、「パート他」9.2%であった。

2 子ども

2-1 家族当りの子ども数 「1人」5人(14.3%)、「2人」14人(40.0%)、「3人」15人(42.9%)、「4人以上」1人(2.9%)で、平均2.24人であった。「幼稚園・保育園児がいる」親は35人中21人(60.0%)、「小学生以上の子どもがいる」親は16人(45.7%)、不明1人であった。また、「幼稚園・保育所」、「小学校」の子どもがいないのは7人(20%)であった。

プレイセンターでは、「1人」と「2人」が各46.3%、「3人」7.4%。平均1.6人であった。

2-2 参加している子ども ①サークルに参加している子どもの総数は41人。参加しているのは、「第1子」8人(19.5%)、「第2子」19人(46.3%)、「第3子」14人(34.1%)であった。②参加している子どもの年齢は、「0歳～1歳」9人(21.4%)、「2歳」10人(23.8%)、「3歳」14人(33.3%)、「4歳」4人(9.5%)、「5歳」1人(2.4%)、「6歳」1人(2.4%)、「7歳以上」3人(7.1%)であった。参加児の中心は「2歳」・「3歳」で、参加児全体の57.1%を占めた。「7歳以上」は小学生で、そのうち3人は午後のサー

クルに参加していた。

プレイセンターに参加している子どもの総数は71人。プレイセンターでも参加児の中心は「2歳」・「3歳」で、合計が63.4%であったが、サークルより0～1歳」が28.1%で約7ポイント高く、「第一子」が26.8ポイント高かった。プレイセンターでは、学校が休みの時に会員である親が小学生を連れてくることはあるが、参加児には数えていない。

3 子育てに協力してくれる人（複数回答）

「夫」32人（91.4%）,「自分の親」22人（62.9%）,「サークルの仲間」12人（34.3%）,「夫の親」7人（20.0%）,「近所の人」6人（17.1%）,「親以外の自分の身内」4人（11.4%）,「学校時代の友人」3人（8.6%）,「親以外の夫の身内」1人（2.9%）の順であった。

プレイセンターも「夫」が主で、「自分の親」がこれに続いている点は同じだが、次の点でサークルと異なっていた。サークルでは、「サークルの仲間」がプレイセンターの「子育て中の仲間」より25ポイント高く、「近所の人」が10ポイント高かった。反対に、プレイセンターでは「ファミリーサポートセンター」が16.7%であったが、サークルでは0%であった。

この結果は、プレイセンターとサークルの参加児の比較から説明できるように思われる。プレイセンターは乳児と第一子がサークルより多く、親は初めての育児で、子どもを介したつきあいもありあまり広くはないであろう。そのため、子育て中の仲間や近所の人を頼りにくく、市の制度を利用するのではないか。一方、サークル会員は平均2人以上の子どもを持っており、子育て仲間や近所との付き合いもプレイセンター会員より長いので、家族以外の身近な人に頼ることができる割合が高い。そのため、サークル会員は地域の人との密接なつながりの中で子育てをしているのだと考えられる。

4 子育て中の気持ち（複数回答）

「子育て中の気持ち」について質問し、結果を表1にまとめた。

表1 子育て中の気持ち（複数回答） n=35

子育て中の気持ち	人数	%
わが子を可愛いと思う。	33	94.3
順調に発達していると思う。	24	68.6
子育ての時間を大切に過ごしたい。	24	68.6
子育ては楽しい。	22	62.9
何となくいらいらすることがある。	15	42.9
子どもをたたいたことがある。	12	34.3
どう接すればよいのか不安になる。	4	11.4
うるさい存在だ・いやになる。	3	8.6
発達に不安な点がある。	3	8.6
子育ては退屈だ。	1	2.9
社会から取り残されている気がする。	1	2.9
その他	1	2.9
時々、一瞬どれも当てはまる	2	5.7

35人中2人が「時々・一瞬どれもあてはまる」と記入していた。この2人の分は表1の人数に含めていないが、これらを含めると全員が「わが子を可愛いと思う」にもかかわらず、約4割がネガティブな感情も経験していることが明らかになった。プレイセンターも同様の傾向であるが、「いらいらする」については79.2%で、サークルの倍であった。

5 サークルの活動について-1

5-1 参加のきっかけ 「友人・知人に誘われて」が最も多く25人（71.4%）で、「自分で調べて」6人（17.1%）,「サークルを立ち上げた（「誘われた」と「立ち上げた」の両方選択を含む）」3人（8.6%）,「その他」（引き継ぐ人がいなくて困っていたので）1人（2.9%）。

5-2 参加の理由について質問し、結果を表2にまとめた。（複数回答）

「その他」の3人中2人は、「きょうだい同士と一緒に遊ばせたい」と記入していた。この2人はどちらも3児の親で、子どもたちの日中の生活の場が別々のケースであった。

プレイセンターでは「子どもが他の子どもと

表2 参加の理由 (複数回答) n=35

参加の理由	人数	%
子どもが他の子どもと遊ぶ機会を作りたい	33	94.3
自分自身が友だちを作りたい	21	60.0
子どもと外出することを楽しみたい	18	51.4
子育てのさまざまな知識や工夫を学びたい	11	31.4
子育ての悩みを聞いてほしい	7	20.0
子どもとの上手な遊び方を知りたい	6	17.1
自分の子育てがこのままでよいのか知りたい	3	8.6
子育て不安を持つ親と支え合いたい	3	17.1
サークル関係の学習会や講習会に参加したい	2	5.7
役員(係)を引き受けて活動したい	1	2.9
少しでも子どもと離れる時間を作りたい	0	0
その他 きょうだい同士で遊ぶ機会を作りたい 2、他 1	3	8.6

遊ぶ機会を作りたい」87.0%、「子育ての様々な知識や工夫を学びたい」61.1%、「子どもと外出することを楽しみたい」57.4%、「自分自身が友だちを作りたい」53.7%、「子どもとの上手な遊び方を知りたい」40.7%、「学習会に参加したい」22.2%、「子育て不安を持つ親と支え合いたい」20.4%、「子育ての悩みを聞いてほしい」14.8%などとなっている。プレイセンターでも、子どもや親自身の友達を求める傾向は同じであるが、子育てについて「学ぶ・知る」ことに関心のある親がサークルよりも多いことが分かった。

5-3 参加年数 1年未満11人(31.4%)、「1～2年」12人(34.3%)、「2～3年」5人(14.3%)、「3年以上」8人(22.9%)。最長は6年で1人、5年が4人、3年と4年は各1人であった。プレイセンターは2008年発足であるため、最長でも2年強であった。

5-4 サークルでの役割 「リーダーで、サークルを立ち上げた」3人、「リーダーで、引き継いだ」6人、「リーダー以外の役割」3人、「参加のみ」25人(71.4%)、「リーダー兼その他の役割」1人であった。リーダー数がサークル数より多いのは、リーダーが2人いるところが2か所あったためである。

5-5 リーダーのプロフィール リーダーは「30代」8人、「40代」1人で、全員が無職であった。子ども数は「3人」が4人、「2人」が4人、「1人」が1人。幼稚園・保育園以上の子どもを「持つ

ている」のは6人、「なし」2人、「不明」1人であった。プレイセンターにはスーパーバイザー資格を持つ会員が複数いるが、リーダーとは異なる。ただし、市のスタッフが1～3人、交替で勤務している。

5-6 活動の形態

5-6-1 活動頻度は、月に「4回」2か所、「3～4回」2、「3回」2、「2回」1であった。回数の適切性については、「少ない」1人、「適切」32(91.4%)、「不明」2人であった。リーダーの回答では、「少ない」を選んだのは「2回」開催の1人、他の8人は「適切」としていた。プレイセンターは月木と火金の2グループあるが、「毎日」を希望する親が37%であった。

5-6-2 登録組数と常時参加組数・参加子ども数(リーダーの回答) 登録組数は「12組」、「11組」、「10組」、「9組」、「6組」、「5組」、「2組」がそれぞれ1か所ずつであった。このうち「常時参加」の数は、「10組」が1か所、「4組」3、「5組」、「3組」、「2組」が各1か所であった。また、常時参加の子ども数は「4人」2か所、「11人」、「10人」、「7人」、「6人」、「5～7人」各1か所であった。常時参加が2組の所の参加子ども数は6人であった。

5-6-3 運営費 「会費0円」が6か所、「年会費200円」が1か所で、行事のときに費用がかかるという意味の記入も1か所あった。「会費0」のところは市の補助のみで運営していたが、運営費の詳細については、今回は調査していない。プレイセンターは、市の子育て支援として利用自体

は無料だが、行事などの活動費のために友愛サークルを行う年もある。

5-6-4 市の補助についての要望を自由記述で求めたところ、「会場費を全回分出して欲しい」が2人、「補助の内訳を明確にしてほしい」が1人いた。ちなみに市の補助の内容は、2012年現在、市の施設を使用する場合の月3回までの費用、及び、折り紙などの消耗品である。会場は各サークルとも、地区会館・市の施設を利用している⁹⁾。

他の自治体と同様、恵庭市でもサークルへの人

的・物的支援、資金の助成等を行っているが、利用者の要望に十分応えきれないのが実情であろう。しかし、自主的な活動を本質とするサークルに「ある程度」の自助努力を求めることは必ずしも不当ではない。「どの程度」まで補助するのがよいかということは、今後の検討課題である。

6 「サークル」の活動について-2

6-1 活動の内容について、2者択一の質問をした。結果は表3にまとめた。

表3 「サークル」の内容について

n=35

サークルの内容		人数	%
1	a 親子の組み合わせを大事にし、わが以外の子とも遊ぶことはあまりない	4	11.4
	b お互いに他の子どもとも遊ぶため、わが子から手が離れることもよくある	29	82.9
2	a メンバー間で育児方針を共有・確認してはいない	12	34.3
	b メンバー間で育児方針を共有・確認している	21	60.0
3	a ふだんの日の活動は予定している内容で行う	7	20.0
	b ふだんの日の活動は特にきめていない	25	71.4
4	a メンバー同士、率直な態度で付き合っている	33	94.3
	b メンバー同士、かなり気を使って付き合っている。	0	0
5	a みんなで遠足や見学に出掛けることがある	26	74.3
	b みんなで遠足や見学に行くことはない	7	20.0
未記入+両方選択 1:2人、2:2人、3:3人、4:2人、5:2人			

項目1の「お互いに他の子どもとも遊ぶため、わが子から手が離れることもよくある」は82.9%で、参加者が概ねよく交流していることがうかがわれる。2の「メンバー間で育児方針を共有・確認している」は、同じサークルでも判断が分かれていた。3の「ふだんの日の活動はとくに決めていない」は71.4%で、各サークル内で大体意見が一致している。4の「メンバー同士、率直な態度でつきあっている」は94.3%だが、「かなり気を使う」と両方選んだ人が1人、不明が1人であった。5の「みんなで遠足や見学に出かけることがよくある」は、サークルによるちがいが大きかった。

プレイセンターでは、入会時の説明や入会後の学習会を通して、育児方針の共有化が図られている。サークル同様親子の交流も盛んで、人見知りをする子ども以外は、他の親とも遊ぶことが普通である。

6-2 「サークル」に参加後の気持ちの変化について質問し、結果を表4にまとめた。

表4 参加後の気持ちの変化(複数回答) n=35

気持ちの変化	人数	%
気分転換になる。	32	91.4
よい人たちに巡り合えた。	32	91.4
学ぶことが多い。	19	54.3
生活にリズムができてよかった。	16	45.7
子育てが楽しくなった。	14	40.0
子どもの目線に立てるようになった。	9	25.7
自己発揮できる場だと思う。	2	5.7
子育てに自信が持てるようになった。	0	0
サークルは生きがいだ。	0	0
その他	1	2.9

「気分転換になる」と「良い人たちに巡り合えた」が各91.4%であった。「学ぶことが多い」、「生活にリズムが出来た」、「子育てが楽しくなった」、「子どもの目線に立てるようになった」がこれに続く。

ている。「自己発揮できる場」は2人(5.7%)で、内1人はリーダーであった。

上記の質問項目と異なるが、プレイセンターでは次のような結果であった。「親同士の親しい関係が作れる」92.4%、「おおらかな気持ちで子育てをしようと思う」90.7%、「子育てが楽しくなった」88.9%、「子どもの目線に立てるようになった」88.9%。

6-3 サークルでの子どもの遊びについて質問した。

6-3-1 子どもの遊びは自由なのか 「子どもが自由に遊ぶ」34人(97.1%)、「親が遊びを決める」2人(5.7%)、「サークルで決めたことをする」9人、「不明」1人であった。プレイセンターでは6～10のコーナーを作って、各コーナーに大人がついているが、どこで遊ぶかは自由である。

6-3-2 どのような遊びをしているか、自由記述を求め、11人から回答を得た。「おもちゃ、工作、粘土、お絵かき、走り回る、ブロック、人形、プラレール、自由」などの他、小学生も参加しているサークルでは、「卓球、ボールあそび、おにごっこ、けん玉、かるた、ミニバレー、ゴムとび、染紙うちわ、万華鏡づくり、いろいろ子どもたちで考えて」が挙げられた。

6-4 普段の活動や行事で、楽しかったことや有意義だったことを(自由記述)質問したところ、23人が回答した。内訳は、「遠足等」14(遠足5、イチゴ狩り4、工場見学等5)、「製作、鬼ごっこ等日々の活動」7、「行事」(ハロウィン、紙ヒコウキ大会、お誕生会)5、「水遊びなど季節ごとの遊び」2、「母親同士のかかわり」2、その他1であった。

6-5 困った事や失敗したことを質問したところ(自由記述)10人が回答した。「メンバーが増えない」2、「親が同行しない子への対応」2、「自分(親)が行けなくても子どもが行きたがる」1、「けが」1、のほか、「親同士の関係」5であった。「親同士の関係」には、子どものけんかで親同士も気まづくなった、みんなをまとめるのが大変、役割

分担などが含まれる。

6-6 自分のサークルの特色について、自由記述で回答を求め、結果を表5にまとめた。

表5 自分のサークルの特色(自由記述) n=33

特 色	人数
自由・気軽・負担や強制がない	11
のんびり・和気あいあい・仲良く話す	10
子どもの遊びが自由・自主性尊重	9
幼・小の子どもも対象	3
先生が素晴らしい	1
行事が多い	1

「子どもの遊びが自由・自主性尊重」、「のんびり・アットホーム・和気あいあい・親同士も仲良く話す」という2項目については、回答数は少ないがサークルの特質から予想されることであった。しかし、「自由に参加できる・気軽・強要や負担がない」11という結果には、5-4の結果と併せて判断すると、自主的な活動と思われたサークルの意外な側面が表れているようである。

また、「幼・小の子どもも対象」のサークルは午後開催で、幼児から小学生までの異年齢児交流という特色を持っていた。「先生が素晴らしい」は、近所の母親仲間ではない指導者がいるということだろうか。

6-7 今後してみたい活動について質問した。

自由記述で、手がかりが少なかったためか、回答は少数であった。「サークルとして」は、「冬の外遊びや行事」を3人が提案し、「サークルの連合会として」は、「サークルから集まって年1回のイベント企画」1、「人形劇」1が挙げられた。

6-8 サークルの存続については、「当分このまま存続する」21人、「近いうちに解散する」2人、「考慮中」8人で、「他のサークルと合流する」、「NPO化」、「内容を工夫して継続」の3項目は0だった。リーダーとメンバーで意見が分かれたところもあり、リーダー間で意見の分かれているところもあった。

7 他の子育て支援に参加した経験

「他の子育て支援に参加したことがある」は29人(82.9%)、「ない」は6人(17.1%)であった。

7-1 次に、「他に参加経験あり」の29人に下記の①～③の質問をした。

①利用したことのある支援 「ひろば事業」17人、「プレイセンター」16人、「午後プレ」5人、「幼稚園・保育所の子育て支援」14人、「他のサークル」2人であった。

②他の子育て支援を利用した理由(複数回答) 「サークル以外の日も子ども同士で遊ばせたい」14人、「単に好奇心で」7人、「他の子育て支援から学びたい」2人、「もともと他を利用していた」6人、「いろいろな人と接したくて」5人、その他1人であった。

③他の支援より「サークル」が良いと思う点 「親同士親しくなれる」8人、「地域密着型・情報が身近」2人、「近所」2人、「親子ともども仲良くできる」1人、「先生がよい」1人、「ルールがあり過ぎず自由に遊べる」2人、「おなじ幼稚園」1人、「子どもたちが生き生き遊んでいる・自由に遊ぶ」3人、「会費0円」1人、「自由・気軽」5人であった。

7-2 「他の利用経験なし」の6人に、理由を質問したところ、「サークル以外の日は他にすることがある」4人、「何となく行かなかっただけで、他の子育て支援にも関心がある」2人で、他に對する否定的・拒否的な理由はなかった。

8 「子育てや子育て支援に関する意見」(自由記述)

- ・公園の遊具の充実を希望する。
- ・恵庭は子育てにも充実している町だと思う。
- ・恵庭は子育てのしやすい町だと思う・負担から逃げたいお母さんが多くなり、サークルの存続は難しくなっている。プレイセンターや子育て支援が充実すればするほど、対照的に危機に陥る。時代の流れだと思うが、地域の会館からこどもが消えていくのはさみしい。

- ・他市から転居してきた。恵庭の子育て支援はすごく充実していて、参加しやすく素晴らしいと感じている。参加したいと思える行事が多いし、すべての施設が近くて行きやすいし、定員いっぱいになっていなくて、参加可能なことが多い。お金もかからない。

- ・支援をこれからもお願いします。

- ・異年齢交流できる場が欲しい。赤ちゃんのみ、幼児のみ、小学生以上と、あらゆるところで制限されていて、極端に、接することが出来ないまま青年期を過ごすことが多い気がする。

- ・恵庭では子どもを遊ばせるところが充実していると思う。すべての曜日、ひろば等が開放されているので、好きな時に遊びに行ける。

- ・子育ては1人でするものではなく、いろいろな人に子どもと関わってほしいと思う・子どもと一緒に参加出来るようなものは、積極的に参加している。

IV. まとめ

1 サークルもプレイセンターも親子が相互によく交流しており、親同士の関係も良好であった。子どもの遊びはサークル、プレイセンターともに、ほぼ全員が自由だととらえていた。

2 小学生も参加しているサークルは、2か所とも活動時間は15時～17時で、今後のサークルの在り方として参考になると思われる。月に3～4回であっても、小学生の居場所として、また、異年齢児の交流の場として、有意義ではないだろうか。なお、異年齢の交流については、子育て支援センターと児童館機能、異世代交流機能を併せ持った地域支援センターもあり、土日は百数十人の利用がある。今後、実施場所が増えることが望ましい。

3 自分のサークルの特色は「自由・気軽・負担や強要がない」と記入した人が33%で、これは役割を持たず「参加のみ」との回答が68.6%であったことと関連していると思われる。リーダー

の1人は、「負担から逃げたい親が多くなっていて、サークルの存続が難しい」と書いていた。自由に利用できる長所は、存続にとっては弱点になっているようである。

プレイセンターは、市の施設ではあるが会員の協働が基本方針であるため、「運営・行事に継続的な役割を持っている」が66.6%、今後「他の親と一緒に企画等の担当をしたい」親は35.2%であった。基本方針が浸透してきていると考えられる。

4 他の子育て支援と違う「サークルの良さ」として、記載はわずかであるが「地域密着型・近所・同じ幼稚園」が挙げられていた。また、子育てに協力してくれる人として、「サークルの仲間」や「近所の人」が夫や身内の次に挙げられていたことから考えると、恵庭市の子育てサークルは、自発的な活動としての面よりも、地域密着型の利用しやすさが主たる特徴であると考えられる。

文 献

- 1) 子育てサークル研究会：子育てサークルの活動に関する調査報告書（文部科学省委嘱事業「家庭教育に関する活性化方策の推進」事業）：3, 2001. (2012年11月20日取得, <http://www.nwec.jp/jp/data/publish-report-page0201.pdf>)
- 2) 櫻井慶一：保育制度改革の諸問題—地方分権と保育園. 185, 東京, 新読書社, 2007.
- 3) 恵庭市, 恵庭市子育てサークル連絡会活動経過. 2012.
- 4) 大滝まり子, 古郡曜子：恵庭型プレイセンター社会実験プロジェクト共同研究報告書：63, 2009.
- 5) 中谷奈津子：地域子育て支援と母親のエンパワメント—内発的発展の可能性. 22-23, 岡山, 大学教育出版, 2008.
- 6) 大滝まり子, 古郡曜子：恵庭型プレイセンター社会実験プロジェクト共同研究報告書, 2 (平成21年度版)：5-54, 2010.
- 7) 前掲書：5) 55-58
- 8) 前掲書：1) 129-154.
- 9) 恵庭市：子育てサークルで一緒に遊びませんか?. 2010.
- 10) 前掲書：1) 61.

資料

子育てサークルについての質問調査（参加者用）

北海道文教大学 こども発達学科

大滝まり子

この調査は、恵庭市の子育て支援の実施状況及び利用状況を調査把握するためのものです。今回は、「子育てサークル」を利用されている方のご意見を中心に調査し、「子育てサークル」の特徴を明確にしたいと考えております。

収集した資料は上記の研究目的にのみ使い、許可なく他に利用することはありません。ご協力をよろしくお願いいたします。

I ご自分について、あてはまるものに○をつけて下さい。

- (1) 年齢は (10代 20代 30代 40代 50代以上)
- (2) 現在の職業について、○をつけて下さい。
- | | | |
|---------|------------|-------------|
| 1 フルタイム | 2 パートタイム | 3 フレックスタイム |
| 4 自営業 | 5 自宅で教室・指導 | 6 仕事は持っていない |

II あなたのお子さんについて伺います。 ((2)は人数に合わせて、複数回答可)

- (1) 子どもの数 (1人 2人 3人 4人以上)
- (2) 現在「子育てサークル(以下サークル)」に参加しているお子さんは、第何子で何歳ですか。
- | | |
|---------|--------------------------|
| (2) - 1 | 第(1 2 3 4 5)子 |
| (2) - 2 | (0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 6歳) |
- (3) 幼稚園・保育所に行っている子どもが (1 いる 2 いない)
- (4) 小学生以上の子どもが (1 いる 2 いない)

III 子育てに協力してくれる人がいますか。(複数回答可)

- | | | |
|-----------------|-------------|-------------|
| 1 夫 | 2 自分の親 | 3 親以外の自分の身内 |
| 4 夫の親 | 5 親以外の夫の身内 | 6 近所の人 |
| 7 学校時代の友人 | 8 「サークル」の仲間 | |
| 9 ファミリーサポートセンター | | |
| 10 その他(具体的に) | | |

IV 子育て中の気持ちについて、あてはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

- 1 わが子を可愛いと思う。
- 2 順調に発達していると思う。
- 3 発達に不安な点がある。
- 4 うるさい存在だ・いやになる。
- 5 どう接すればよいのか不安になる。

- 6 子育ては楽しい。
 - 7 子育ては退屈だ。
 - 8 子育ての時間を大切に過ごしたい。
 - 9 何となくいらいらすることがある。
 - 10 子どもをたたいたことがある。
 - 11 社会から取り残されている気がする。
 - 12 その他（具体的に）
-

V 「サークル」の活動について

(1) 参加のきっかけ

- 1 サークルを立ち上げた
- 2 自分で調べて
- 3 友人に誘われて
- 4 その他（具体的に）

(2) 参加の理由に○をつけて下さい（複数回答可）

- 1 子どもが他の子どもと遊ぶ機会を作りたい。
- 2 自分自身が友だちを作りたい。
- 3 自分の子育てがこのままでよいのか知りたい。
- 4 子どもとの上手な遊び方を知りたい。
- 5 子育ての様々な知識や工夫を学びたい。
- 6 子どもと外出することを楽しみたい。
- 7 少しでも子どもと離れる時間を作りたい。
- 8 子育ての悩みを聞いてほしい。
- 9 子育て不安を持つ親と支え合いたい。
- 10 サークル関係の学習会や講習会などに参加したい。
- 11 役員（係）を引き受けて活動したい。
- 12 その他（具体的に）

(3) サークルへの参加年数について伺います。

- 1年未満 1～2年未満 2～3年未満 3年以上（.....年）

(4) サークル内でのあなたの役割分担について伺います。

- 1 リーダー的な立場である（サークルを立ち上げた 引き継いだ）
- 2 リーダー以外の役割がある
- 3 参加のみ

(5) 活動の形態について伺います。

- 1 活動の頻度は 月に.....回 である。
- 2 これは (1 少ない 2 適切 3 多い) と思う
- 3 参加者数 登録は.....組 である。
常時来るのは約.....組で、子ども約.....人。

(6) 個々のサークルの運営費について伺います。

- 1 運営費は (1 会費.....円 2 市の補助のみ
3 寄付 4 友愛セールなど)
- 2 会費制の場合の用途は
.....
- 3 市の補助について要望はありますか。

VI 「サークル」の活動について—2

(1) 「サークル」の内容について、1～6のa,bのどちらかに○をつけて下さい。

- 1 a 親子の組み合わせを大事にし、わが子以外の子どもと遊ぶことはあまりない。
b お互いに他の子どもとも遊ぶため、わが子から手が離れることもよくある。
- 2 a メンバー間で育児方針を共有・確認してはいない。
b メンバー間で育児方針を共有・確認している。
- 3 a ふだんの日の活動は予定している内容で行う。
b ふだんの日の活動は特に決めていない。
- 4 a メンバー同士、率直な態度で付き合っている。
b メンバー同士、かなり気を使って付き合っている。
- 5 a みんなで遠足や見学に出掛けることがある。
b みんなで遠足や見学に行くことはない。

(2) 「サークル」に参加後の気持ちの変化に○をつけて下さい。(複数回答可)

- 1 子育てが楽しくなった。
- 2 子どもの目線に立てるようになった。
- 3 自分の子育てに自信が持てるようになった。
- 4 気分転換になる。
- 5 学ぶことが多い。
- 6 サークルは生きがいだ。
- 7 生活にリズムができてよかった。
- 8 良い人たちに巡り合えた。
- 9 自己発揮できる場だと思う。
- 10 その他 (具体的に)

(3) 「サークル」でのお子さんの遊びについて

- 1 子どもが自由に遊ぶ。
 - 2 親が遊びを決める。
 - 3 「サークル」で決めたことをする。
 - 4 どんな遊びをしていますか。
-
-

(4) ふだんの活動や行事で、楽しかったことや有意義だったことは何ですか。

(5) 困ったことや失敗したことは何ですか。

(6) 自分のサークルの特色はどのような点だと思いますか。

(7) 今後してみたい活動は何ですか

- 1 個々のサークルとして
- 2 わんぱく連合会として

(8) 「サークル」の存続について

- 1 当分このまま継続する。
 - 2 他のサークルと合流する。
 - 3 近いうちに解散する。
 - 4 考慮中である。
 - 5 NPO 法人化したい。
 - 6 内容を工夫して継続する (どのように工夫しますか)
-

VII 他の子育て支援に参加したことがありますか (1 ある 2 ない)

⇒ 「ある」は (1) ~ (3) へ。 「ない」は (4) へ。

「ある」

(1) 利用したことのあるものに○を付けて下さい。

- 1 ひろば事業
- 2 プレイセンター
- 3 午後プレ
- 4 幼稚園・保育所の子育て支援
- 5 その他 (具体的に)

(2) 他の子育て支援を利用した理由は何ですか

- 1 サークル以外の曜日も子ども同士で遊ばせたい。
- 2 単に好奇心で。
- 3 他の子育て支援から学びたい。
- 4 もともと他を利用していた。
- 5 いろいろな人と接したくて。
- 6 その他（具体的に）

(3) 他の子育て支援より「サークル」がよいと思う点は何ですか。

「ない」

(4) 他を利用しない理由は何ですか。

- 1 「サークル」以外の日は他にすることがある。
- 2 他に行くのは面倒。
- 3 子どもには「サークル」だけで十分である。
- 4 あまりつきあいを広げたくない。
- 5 なんとなく行かなかただけで、他の子育て支援にも関心がある。
- 6 その他

VIII 子育てや子育て支援に関して、自由にご意見をお聞かせ下さい。

ご協力まことに有難うございました。

<担当者連絡先>

北海道文教大学 こども発達学科
 (直通) 29-8036 (大滝まり子)

Child-Rearing Circles in Eniwa City

OHTAKI Mariko

Abstract: Child-Rearing Circle (henceforth, Circle) is a program in which child-rearing mothers gather along with their young children and spend time chatting, playing with the children, and taking part in organized events. In Eniwa City, there are seven such Circles which meet on a regular basis. The attitudes and ideas of members regarding their participation in their Circles were investigated by means of a questionnaire, and the responses were compared with those of Playcenter (another type of childcare supports in Eniwa) members who had been surveyed previously. The following results were obtained: (1) 68% of the members of the Circles said that they just took part in their Circle activities and didn't have any specific role to play in their Circle group, while 66% of the Playcenter members said they not only participated in but also assumed a specific role in the Playcenter. (2) 34% of the Circle members said they did or would count on their friends in the Circle if or when they needed help with childrearing if they were unable to receive such help from their spouses or other family members, while 17% said they would count on their neighbors. On the other hand, only 9% of the Playcenter members said they did or would turn to Playcenter friends for help, while 7% of them would count on their neighbors. This difference may be attributed to the fact that the Circles are more local community-based rather than city-wide programs.